

環境科学部の教育理念・目標

環境科学部は、人間と環境の調和的共生という人類史的な課題に対し、自然と人間との調和を踏まえた自然環境の保全と持続可能な人間社会の創造・実現に寄与する人材の育成を教育理念とし、この理念を実現するために以下を教育目標としています。

1. 文系・理系の両面から環境をめぐる諸問題を多角的に捉える視座を持つ人材を育成する。
2. 実践的環境スペシャリストとして環境問題解決の専門的知識や能力を持つ人材を育成する。
3. 情報処理、実験技法、フィールド調査、コミュニケーションに関する知的技術を持つ人材を育成する。

この教育目標を達成すべく、以下に挙げる3つのポリシーに基づいた学士課程教育を行います。

環境科学部のディプロマ・ポリシー

所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、

1. 社会科学と自然科学に関する基礎的知識を修得している。
2. 自然環境メカニズムから社会システムにわたる多様な分野・領域において必要とされる汎用性の高い技能を身につけている。
3. 環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能を修得している。
4. 地球環境と社会の多様性について理解している。
5. 環境問題の解決のために主体性をもって他者と協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
6. 地域社会及び将来世代の持続可能な発展に貢献できるグローバルな視点を身につけている。
7. 持続可能な地域社会及び国際社会に貢献できる能力を身につけている。
8. 各コースの学修到達目標を達成している。

と認められた者に対し、学士（環境科学）の学位を授与します。

環境政策コースの学修到達目標

1. 環境問題を、社会科学の専門的見地から理解している。
2. 持続可能な社会システムを構築するための学術的・政策的知識を有している。
3. 社会科学のみならず、自然科学に関する専門的知識を修得することにより、環境問題を多角的視点からとらえることができる。
4. 環境問題に関わる人間社会環境、法制度、社会経済システム、環境計画について専門的手法を身につけ、収集した資料を適切に分析し、それを的確に表現することができる。
5. 環境政策に関する専門的知識を身につけ、主体性をもって他者と協働できるコミュニケーション能力を身につけている。

環境政策コースのカリキュラム・ポリシー

長崎大学のカリキュラム・ポリシーに沿って、環境科学部生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 入門科目の共通科目で、地球環境及び地域環境、フィールド調査・観測に関する基礎的知識を学びます。
学修の到達度は、主にレポート及び筆記試験により評価します
2. 環境政策コース基礎科目で、社会科学の基礎的知識、そしてそれらを環境問題へ応用するための基本的知識と技術について、講義と演習により学びます。
学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、プレゼンテーション、及びディスカッションを通じて評価します。
3. 環境政策コース専門科目で、人間社会環境、法制度、社会経済システム、環境計画に関する広範な専門的知識を学びます。また、キャリア形成に必要な実践的知識、国際・地域において活用できるコミュニケーション能力を実践的に学びます。さらに、コース横断的に環境保全設計コースの専門的知識も学びます。
学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、プレゼンテーション、及びディスカッションにより評価します
4. 卒業研究において、それまでの学びを活かし、専門性・学術性の高い知識と技能を学びます。
学修の到達度は、主に卒業論文及びプレゼンテーションを通じて評価します。

科目に関する別表（環境政策コース）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として養われる資質	基礎的知識 ・理解	大気環境概論 水環境概論 地域環境概論 Introduction to Environmental Science 環境情報処理 環境フィールド 調査論	経済学概論	環境哲学 環境・資源経済学 民法 環境統計学Ⅰ 国際環境論Ⅱ 環境計画学Ⅱ (2年次開講コース専門科目)	
	専門的知識 ・技術	環境法Ⅰ 環境社会学Ⅰ 環境経済学Ⅰ 環境倫理学 環境基礎科学 A・B 自然環境保全学 環境計測学	環境政策学Ⅰ 国際環境論Ⅰ 社会調査論 環境計画学Ⅰ 環境経済学Ⅱ 環境社会学Ⅱ 環境法Ⅱ (コース基礎科目)	行政法 環境ビジネス論 環境政策学Ⅱ 環境政策学Ⅲ 環境政策学Ⅳ 森林政策論 環境地域社会学 環境思想・社会運動論 人間環境論Ⅰ・Ⅱ 環境教育論 環境ガバナンス論Ⅰ・Ⅱ 地域計画論Ⅰ・Ⅱ 自然環境計画論 エコツーリズム論 資源循環共生論 環境統計学Ⅱ 持続可能社会論Ⅰ・Ⅱ エネルギー資源学 保全生物学 保全生態学	
	環境問題解決の 実践力	環境フィールド 演習Ⅰ・Ⅱ	環境政策基礎 演習A・B	社会調査演習A・B	環境政策演習 A・B
	地域連携・ 国際交流・ 協調性	環境科学特別講 義A・B・C	環境キャリア 概論	インターンシップ 環境英語コミュニケーション 論 実践英語	地域環境実習 A・B・C・D・E 地域環境実践 国際環境実習 A・B・C・D
科学的態度				環境科学特別研究	

環境保全設計コースの学修到達目標

1. 環境問題を、自然科学の専門的見地から理解している。
2. 持続可能な自然環境メカニズムを修復・保全・設計するための学術的・政策的知識を有している。
3. 自然科学のみならず、社会科学に関する専門的知識を修得することにより、環境問題を多角的視点からとらえることができる。
4. 環境問題に関わる地球科学、環境技術、生物多様性保全、生体影響について専門的手法を身につけ、収集した資料を適切に分析し、それを的確に表現することができる。
5. 環境保全設計に関する専門的知識を身につけ、主体性をもって他者と協働できるコミュニケーション能力を身につけている。

環境保全設計コースのカリキュラム・ポリシー

長崎大学のカリキュラム・ポリシーに沿って、環境科学部生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 入門科目の共通科目で、地球環境及び地域環境、フィールド調査・観測に関する基礎的知識を学びます。
学修の到達度は、主にレポート及び筆記試験により評価します
2. 環境保全設計コース基礎科目で、自然科学の基礎的知識、そしてそれらを環境問題へ応用するための基本的知識と技術について、講義、実験、演習により学びます。
学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、実験成果、及びプレゼンテーションを通じて評価します。
3. 環境保全設計コース専門科目で、地球科学、環境技術、生物多様性保全、生体影響に関する広範な専門的知識を学びます。また、キャリア形成に必要な実践的知識、国際・地域において活用できるコミュニケーション能力を実践的に学びます。さらに、コース横断的に環境政策コースの専門的知識も学びます。
学修の到達度は、主にレポート、筆記試験、プレゼンテーション、及びディスカッションにより評価します。
4. 卒業研究において、それまでの学びを活かし、専門性・学術性の高い知識と技能を学びます。
学修の到達度は、主に卒業論文及びプレゼンテーションを通じて評価します。

科目に関する別表（環境保全設計コース）

科目等 資質等		入門科目	専門基礎科目	専門科目	発展的専門科目
主として 養われる 資質	基礎的知識 ・理解	大気環境概論 水環境概論 地域環境概論 Introduction to Environmental Science 環境情報処理 環境フィールド 調査論 教職論*	地学概論* 理科教育法*	環境気象学 水環境科学 進化生態学 植物自然史 分析化学 環境生物学 環境統計学 I 理系レポート・論文 の書き方 教職実践演習*	事前・事後指導* 教育実習*
	専門的知識 ・技術	環境法 I 環境社会学 I 環境経済学 I 環境倫理学 環境基礎科学 A・B 自然環境保全学 環境計測学	環境数学 基礎物理学 地球科学 基礎化学 環境化学 環境生物学 I・II	廃棄物工学 地圏水圏環境学 地震・火山学 大気化学 物質循環環境科学 保全生物学 保全生態学 環境統計学 II 動物機能学 環境植物学 環境毒性学 環境安全学 土壌科学 環境地下水学 グリーンケミストリー エネルギー資源学	
	環境問題解 決の実践力	環境フィールド 演習 I・II	基礎科学実験 A・B	地球環境実験 生物多様性実験 生体影響実験 環境技術実験 社会調査演習 A・B	地球環境演習 A・B 環境技術演習 A・B 生体影響演習 A・B 生物多様性演習 A・B
	地域連携・ 国際交流・ 協調性	環境科学特別講 義 A・B・C	環境キャリア 概論	インターンシップ 環境英語コミュニケ ーション論 実践英語	地域環境実習 A・ B・C・D・E 地域環境実践 国際環境実習 A・ B・C・D
	科学的態度				環境科学特別研究

* 教職関連自由選択科目

【環境科学部のアドミッション・ポリシー】

環境科学部は入学者に以下の資質・素養を求めます。

- ・ 多様な環境科学を学修する基盤となる高等学校卒業程度の知識・技能・理解が充実している。
このため、大学入学共通テストでは幅広い科目に対して配点しています。前期日程試験の選抜方法A（文系受験）では国語と地歴・公民，選抜方法B（理系受験）では数学と理科の配点を高くしています。
- ・ 学修・研究に必要となる基本的な英語能力がある。
前期日程の選抜方法A（文系受験）の個別学力検査で英語を課し，選抜方法B（理系受験）では英語を選択可能な科目として位置づけています。
- ・ 環境科学を専門的に学修するために必要となる判断力や思考力を有する。
後期日程試験では，小論文試験でこれらの資質を評価します。
- ・ 環境をめぐる諸問題に強い関心を持ち，環境科学を学ぶ意欲にあふれ，主体的に学修を継続する姿勢がある。
このため，前期日程ではペーパー・インタビューで，後期日程や学校推薦型選抜，外国人留学生選抜等では面接で，これらの資質・素養を評価します。

選抜方法に関する別表（求める資質等の評価方法とその比重（特に大きい比重：◎，大きい比重：○））

選抜方法等		求める資質等 (学力の3要素)	基礎学力 (知識・技能)	英語能力 (知識・技能) (思考力等)	判断力・表現力・ 思考力 (思考力等)	意欲・積極性，環境への 関心度 (思考力等) (主体性等)
一般選抜	前期日程	共通テスト	◎	○		
		個別学力検査		○	○	
		調査書			○	○
		ペーパー・インタビュー			○	○
	後期日程	共通テスト	◎	○		
		小論文			○	○
		面接			○	○
学校推薦型選抜Ⅱ	共通テスト	◎	○			
	調査書			○	○	
	面接			○	○	
外国人留学生選抜	日本留学試験	◎				
	小論文			○	○	
	面接			○	○	